

政策科学か総合政策学か

松田 憲忠
北九州市立大学法学部政策科学科

シンポジウム
『政策科学か総合政策学か—北九州市の政策を検証する—』
(2006年10月28日 北九州市立大学)

アウトライン

1. 今日の政策をめぐる状況
2. 総合政策学のアプローチ
3. 政策科学のアプローチ
4. 政策科学か総合政策学か
—政策を対象とする学問の姿をめぐる—

1. 今日の政策をめぐる状況

- ガバメントからガバナンスへ
 - 議会や行政だけでは、市民のニーズを政策に反映しきれない
 - 市民のニーズを如何にして政策過程に組み込むか？
議会や行政以外のルートが必要なのでは？
 - より良い政策, より良い社会の実現に向けて
 - 市民という存在への着目 ⇒ミクロな視点
 - 政策過程のあり方の再考 ⇒マクロな視点
 - 政策を対象とする新たな学問領域の確立の重要性
 - 伝統的社会科学の不十分さ
 - 新たな学問領域の確立の試み
 - 総合政策学
 - 政策科学
- ★ 政策を対象とする学問に必要な視点とは？

2. 総合政策学のアプローチ

- 問題解決の学
 - 現実の様々な社会問題に対して、伝統的社会科学は有効な解決策を提示できていない
 - 問題解決の重要性
⇒問題の発見, 迅速で優れた解決策の立案, 円滑な解決策の実施, 的確な解決策の評価
- 「総合」の含意
 1. 多様な学問領域を総合する
 2. 政策のプロセスの全体を対象とする
 3. 様々な関与主体を全体として(総合的に)把握する
- 政策の再定義
 - ガバナンス時代における「政府」の相対化
 - 「市民」の新しい位置づけ

2. 総合政策学のアプローチ

- 脱科学化
 - 伝統的社会科学における論理実証主義への傾倒
⇒ 極度に制御された世界での考察
 - こうした世界における活動から、問題解決という営為を解放する必要性
- 現場の重視
 - 市民のニーズの発見
 - それぞれの現場の特異性
 - 解決策立案の小さなヒントの発見

3. 政策科学のアプローチ

- 政策を対象とする新たな学問領域の必要性
 - 20世紀半ばから既に叫ばれていた
 - E.g., H.D. Lasswell, Y. Dror
 - 「政策科学」(policy sciences)
- 政策科学の特徴は？
- 総合政策学との関係は？
- 政策科学の貢献・意義とは？

3. 政策科学のアプローチ

- 政策科学の位置づけ
 - 民主主義に関する学問
 - 民主主義の実践の改善に寄与することを目指す
 - 生物学と医学との関係のアナロジー ⇒ 政治学と政策科学
 - 学際性
 - 既存の諸社会科学にとって代わるものではない
- 政策科学が取り組むべき問題群
 1. 政策分析
 2. メガ・ポリシー
 3. メタ・ポリシー
 4. 実現のための戦略

3. 政策科学のアプローチ

- 政策科学に対する誤解？
 - 政策の担い手としての「政府」の絶対視？
 - 政府の役割についての考察には、必然的に、他のアクターの役割・行動への着眼が伴う
 - 社会問題解決のための他のアクターの主体的取り組みや協働の考察には、「政府」や「政治」の考察が必要である
 - 「科学」に対する誤解？
 - 政策科学は実験室内、PC上での活動？
 - 数的、質的を問わず、現場でのデータ収集も重要な活動である
 - 政策科学＝政策分析？
 - 政策科学では、政策分析に加えて、メタ・ポリシー等も重要な研究課題である
 - 政策科学はvalue-free？
 - 民主主義実践の改善を目指す政策科学は、価値や歴史等の問題にも積極的に取り組む

4. 政策科学か総合政策学か
—政策を対象とする学問の姿をめぐって—

- 政策科学と総合政策学の類似性
 - 伝統的社会科学のみでは社会問題を解決しきれない
 - 政策を対象とする新たな学問の確立が必要である
 - 伝統的社会科学等の組み入れた学際的な学問でなければならない

- 政策科学と総合政策学との関係は？

4. 政策科学か総合政策学か
—政策を対象とする学問の姿をめぐって—

- 総合政策学の貢献
 - 所謂「科学」のイメージによる呪縛からの解放
 - 計量的分析, large N 研究への傾倒に対する警告
 - アグリゲートなデータからでは把握できない重要な情報の重視
 - ガバナンス時代, ネットワーク時代における政策, 政策過程の捉え方の提唱
 - 政策過程における受け身の市民から, 積極的なアクターとしての市民へ
 - 研究者も積極的に政策の現場へ
- ⇒ 政策科学では必ずしも強調されてはこなかった視点・アプローチを, 今日状況を踏まえて, 前面に押し出している

4. 政策科学か総合政策学か
—政策を対象とする学問の姿をめぐって—

- 政策科学の貢献
 - 帰納的考察
 - メガ・ポリシー
 - アナロジーの提供, 比較分析による特異性・類似性の発見
 - 演繹的分析
 - 予測の提示
 - 考察のプロセス, 変数の明示化 ⇒ 修正可能性
 - メタ・ポリシー
 - 各アクターの行動, 政策情報・知識の扱われ方の検証
 - 政策過程に関するマクロな視点の提供
 - 価値や歴史の問題
 - 政策のあり方, 政策過程のあり方の検討
 - 政策に関する哲学的問題のトップダウン的考察
- ⇒ 問題解決に向けて, 現場志向とは異なるアプローチ
…現場での活動の指針・理論的レンズの提供

4. 政策科学か総合政策学か
—政策を対象とする学問の姿をめぐって—

- 政策を対象とする学問の確立に向けて
 - 学際性の意味とは？
 - 方法論の必要性
 - 例:市民のニーズの発見 ⇒ 医学との類似性？
 - 市民とは？
 - 価値観, 利害の多様性
 - 社会はどこに向かうべきなのか？
 - 諸価値間におけるトレード・オフ; 価値観の多様性
 - どのように決まるのか？
 - 政策研究, 政策研究者の役割・位置づけは？